



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2022年
No.8
事例1

調剤

レセプトコンピュータの入力間違いによる薬剤取り違え



事例

【事例の詳細】

患者にマイスリー錠5mgを含む薬剤が処方された。事務員が処方内容をレセプトコンピュータへ入力する際、マイスリー錠5mgの入力が漏れた。調製者は入力内容を見て調製したため、マイスリー錠5mgを取り揃えなかった。鑑査者が入力漏れに気付き、レセプトコンピュータの入力内容を訂正する際、誤ってマイスタン錠5mgと入力した。調製者はマイスタン錠5mgを取り揃え、鑑査者は患者に交付した。交付後に処方内容を確認した際、薬剤の取り違えに気付き、患者に電話して薬剤を交換した。

【背景・要因】

調製者は、レセプトコンピュータの入力内容と処方箋を照合せずに薬剤を取り揃えた。

【薬局から報告された改善策】

レセプトコンピュータへの入力、薬剤の取り揃え、鑑査の各工程で、その都度入力内容を処方箋と照合することを薬局内で申し合わせた。鑑査時にレセプトコンピュータの入力内容を訂正する際は、原則、鑑査者以外が行う。



その他の情報

販売名	マイスリー錠5mg/10mg	マイスタン錠5mg/10mg
有効成分	ゾルピデム酒石酸塩	クロバザム
薬効分類	入眠剤	抗てんかん剤

2022年8月9日現在



事例のポイント

- 本事業には、レセプトコンピュータへの誤入力により作成された薬剤情報や薬袋、薬剤情報提供書、薬歴画面などを見て調製を行ったことが要因となった薬剤取り違えの事例が多く報告されている。調剤の際は処方箋を確認することが必須であり、業務手順を作成し徹底する必要がある。
- レセプトコンピュータへの処方内容の入力に間違いがあり訂正した際は、その内容を2人以上で確認することが重要である。
- 2022年7月に製薬企業から「マイスリー[®]とマイスタン[®]との販売名類似による取り違え注意のお願い」^{*}が発信された。2012年、2018年に続き3度目の注意喚起である。本事業だけでなく、本事業部が運営している医療事故情報収集等事業には、医療機関での処方オーダーシステムにおける両薬剤の選択間違いが継続して報告されている。処方箋を発行する医療機関や調剤を行う薬局の双方で、繰り返し注意喚起を行う必要がある。

^{*}<https://www.pmda.go.jp/files/000247407.pdf>



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2022年
No.8
事例2

疑義照会・処方医への情報提供

用法



事例

【事例の詳細】

患者にエドルミズ錠50mgが朝食後の用法で処方された。食事の影響により吸収が低下する薬剤であるため、空腹時に服用する必要があると判断し疑義照会を行った。その結果、用法が起床直後に変更になった。

【推定される要因】

空腹時に服用する必要があることを失念して処方したと思われる。

【薬局での取り組み】

添付文書の「薬物動態」の欄を確認する。医療従事者向け資料や患者向け資料を活用する。



その他の情報

エドルミズ錠50mgの添付文書 2022年5月改訂（第1版）（一部抜粋）

6.用法及び用量

通常、成人にはアナモレリン塩酸塩として100mgを1日1回、空腹時に経口投与する。

7.用法及び用量に関連する注意

7.1食事の影響を避けるため本剤は空腹時に服用し、本剤服用後1時間は食事をしないこと。

16.薬物動態

16.2 吸収

16.2.2 食事の影響

日本人健康成人（7例）に本剤 50mgを空腹時、食事開始前1時間又は食事終了後2時間に単回経口投与した。食事開始前1時間に投与したときのアナモレリンの C_{max} 及び $AUC_{0-\infty}$ は、空腹時と比較してそれぞれ1.09及び0.80倍であり、臨床上問題となる影響は認められなかった。一方、食事終了後2時間に投与したときのアナモレリンの C_{max} 及び $AUC_{0-\infty}$ は、空腹時と比較してそれぞれ0.31及び0.49倍に低下し、食事の影響が認められた。



事例のポイント

●エドルミズ錠50mgは非小細胞肺癌、胃癌、肝癌、大腸癌における日本初のがん悪液質に対する治療薬であり、2021年4月に販売が開始された。

●エドルミズ錠50mgは食事の影響を避けるため空腹時に服用する必要がある。医療従事者向けの適正使用ガイド*には、服用の一例として起床直後に飲む場合が掲載されており、服用後は1時間以上たってから食事をすることが記載されている。添付文書に記載されている通り、服用後1時間は食事をしないことを患者に説明しておく必要がある。

*エドルミズ錠50mgの適正使用ガイド

https://www.pmda.go.jp/RMP/www/180188/bf917df9-60ad-430d-b00f-8ccab5cb7262/180188_39990D8F1022_02_003RMPm.pdf

●エドルミズ錠50mgが処方された場合は、患者から生活リズムや食事の状況等を聴取し、がん患者の多様な生活背景を考慮したうえで、患者が服用しやすく、食事の影響を受けにくい服用時点を処方医へ提案することが望ましい。

●患者が正しい服用方法で服薬を継続できるよう、製薬企業が作成している患者向けの資料*を活用し、患者に適切な指導を行うことが重要である。

*エドルミズを服用される患者さんとご家族のみなさまへ

https://www.pmda.go.jp/RMP/www/180188/bf917df9-60ad-430d-b00f-8ccab5cb7262/180188_39990D8F1022_01_002RMPm.pdf



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。